りょうかわ

学校だより　令和3年3月17日発行　第20号　新潟市立両川小学校

過去・現在・未来が交差した瞬間

校長　　中村　雅芳

３月１２日（金）の昼休み，快晴の空の下，なしっ子広場にて本の読み聞かせが行われました。題材は，筒井頼子 作・林明子 絵『はじめてのおつかい』という絵本です。事前のアナウンスが功を奏して，大勢の子どもたちがなしっ子広場に集まりました。５，６年生の図書委員が司会進行を務め，読み聞かせが始まりました。といっても，コロナ禍ゆえに，飛沫が飛ぶ心配のない読み聞かせです。スピーカーから音声が流れます。その音声に合わせて，図書委員が大型絵本のページをめくるという手順で，読み聞かせは進んでいきました。

音声は，この企画に合わせて，事前に録音されたものでした。音声を制作したのは，矢部望実さん，小坂井莉子さん，西賢汰さんの３名です。３名とも両川小学校の卒業生です。２期生の矢部さん，４期生の小坂井さんが朗読を担当し，同じく４期生の西さんが物語に合わせてＳＥ（効果音）をつけました。

ある日，ママが言いました。「みいちゃん，ひとりでおつかいできるかしら」「ひとりで！」みいちゃんは，飛び上がりました。今まで，一人で出かけたことなんか，一度もなかったのです。「赤ちゃんの牛乳がほしいんだけど，ママちょっと忙しいの。一人で買ってこられる？」「うん！みいちゃん，もういつつだもん」

こう言って出かけたみいちゃんでしたが，自転車にベルを鳴らされてどきんとしたり，坂道で転んでしまったり，一人で歩く道は緊張の連続です。ようやく到着したお店でも，

牛乳を簡単に買うことができません。鮮やかに描かれた小さな女の子の心の動きを小坂井さんの朗読が，西さんがつけたＳＥが，どんどん臨場感を高めていき，聞いている子どもたちは，自然に前のめりになっていきました。最後は無事におうちまでたどり着けたみいちゃんに，会場全体から「ほっ」というため息がもれ，次の瞬間，図書委員に向けた万雷の拍手が起こりました。素晴らしい光景でした。

私はその場にいて，心地よさを味わいながら「いま，両川小の過去と現在と未来が，目の前でスパークした！」と感じました。卒業しても母校を思い，母校のためにと読み聞かせＣＤを作ってくれた“かつての”両川小の子どもたち。その音声に合わせ，目の前の聴衆を楽しませようと大型絵本のページをめくっていた“現在”の図書委員たち。この企画の素晴らしさを実感し「私も同じようにＣＤを作ってみたい！」「私もなしっ子広場に聴衆を集めて，何か企画をしてみたい！」と，“未来への”創作意欲を燃やした聴衆たち。誰もがエネルギッシュで，熱意の塊が，真っ青な上空へと突き抜けたように感じました。

このような瞬間を味わえたのは，子どもたちの力はもちろんですが，コロナ禍という苦しい中で「朗読ＣＤ」という新しい工夫を生み出し，卒業生に声をかけて丁寧につないでくれた地域教育コーディネーターの佐藤昌代さん，西晶子さんのおかげです。企画の趣旨に賛同し，全面的に協働してくれた司書の小林清美さんのおかげです。この企画の素晴らしさに共鳴し，子どもたちの背中を押してくれた両川小の教職員のおかげです。つまり，両川小の全ての大人たち，子どもたちの心が共鳴し合ったからこそ，このような心地よい瞬間が生まれたのだと思います。

令和２年度は終わりますが，令和３年度も引き続き，子どもも大人も心を響かせ合いながら，素晴らしい両川小学校をつくってまいります。どうか引き続き，応援のほどをお願い申し上げます。

追記　卒業生３人が制作した朗読ＣＤはもう１枚あります。トミーアングラー 作・今江祥智 訳『すてきな三にんぐみ』です。来年度に再び読み聞かせ会で披露する予定です。また，図書委員会も新年度早々に，自分たちで読み聞かせＣＤを制作するそうです。どちらもとても楽しみです。

離任式のご案内

今年度末をもって両川小学校を離れ，新天地へと向かう教職員が，子どもたちにお別れの挨拶をする「離任式」を**３月２４日（水）８時４５分より**当校体育館で行います。授業日ではありませんが，子どもたちにとって“きちんとお別れをする意味”を学ぶ大切な機会だと考えます。

下校時刻は１０時です。通学バスは通常通り運行し，帰りは１便（割野方面）１０時１０分，２便（酒屋方面）１０時３５分出発予定です。なお，どうしても都合がつかなくて欠席する場合は，あらかじめ学級担任にお伝えください。当日の急な欠席連絡は７時４５分から８時１５分までの間にお願いします。